

1		<p>義経や親鸞も通った 加越国境の旧北陸道（あわら市細呂木など）</p> <p>あわら市の旧北陸道沿いには、関所や一里塚など、各所に当時の街道の風景が残されています。江戸時代初期には福井藩が細呂木に関所を設けるとともに、街道沿いに一里塚を設け、旅人の里程の目安と休憩の場としてきました。</p>	<p>【マップ】</p>	
2		<p>20万株の花菖蒲 北潟湖（あわら市北潟など）</p> <p>福井県最北端の北潟湖は、湖に架かる真っ赤な「アイリスブリッジ」、20万株の花菖蒲が咲き乱れる湖畔の花菖蒲園、湖周辺の風力発電の風車など多種多様な風景が見られます。</p>	<p>【マップ】</p>	
3		<p>蓮如上人布教の聖地 吉崎御坊</p> <p>蓮如上人像が立つ吉崎御坊跡（御山（おやま））からは、北潟湖や湖に浮かぶ「鹿島の森」や周辺の木々など、室町時代の蓮如や信仰厚い門徒たちも同じように眺めた風景がそこにはあります。</p>	<p>【マップ】</p>	
4		<p>文人墨客に愛された名湯 あわら温泉</p> <p>あわら温泉は周囲を坂井平野の水田に囲まれ、のどかな雰囲気の中に落ち着いた温泉街の風景が見られ、水上勉や田山花袋（かたい）等の多くの文人墨客に愛されてきました。</p>	<p>【マップ】</p>	
5		<p>多彩な果樹が迎える 坂井丘陵フルーツライン</p> <p>坂井北部丘陵地の中央には広域農道（フルーツライン）が横断し、その農道沿いには、梨畑、西瓜畑、ブロッコリー畑、ラベンダー畑などが並び、季節によって色鮮やかな顔を見せてくれます。</p>	<p>【マップ】</p>	
6		<p>天下の奇勝 東尋坊</p> <p>東尋坊は、マグマが冷え固まってできた輝石安山岩の柱状節理が、海の荒波を受けてできた岸壁です。高さ20m以上の岩肌が日本海にそそり立ち、国の天然記念物および名勝の指定を受けています。</p>	<p>【マップ】</p>	
7		<p>北前船の栄華漂う湊町 三国</p> <p>三国の町並みは、北前船の寄港地として栄えた江戸時代からのもので、古い湊町ならではの風情が漂っています。その町並みは、九頭竜川に沿って立ち並ぶ町家、商家、土蔵、旧遊郭に見られます。</p>	<p>【マップ】</p>	
8		<p>コシヒカリのふるさと 坂井平野</p> <p>坂井平野は、福井を代表する米どころであり、5月に植えられた稲は、秋が近づくと一斉に色づき、一面黄金色に染まった光景は壮大で、夕日に照らされて、どこまでも広がる稲穂の海がさやさやと風に鳴ります。</p>	<p>【マップ】</p>	
9		<p>田園の中のオアシス 春江ゆりの里</p> <p>ゆりの里公園では6月にゆりフェスタが開催され、3,800㎡の展示圃場に20種類、3万本のゆりとゆり科の植物が一面を埋め尽くし、6月下旬には色とりどりのゆりが微笑みかけます。</p>	<p>【マップ】</p>	
10		<p>北陸唯一の現存天守 丸岡城</p> <p>坂井市丸岡町にある丸岡城は、柴田勝豊（勝家の甥）が天正4年（1576年）に北庄城の支城として築城したお城で、2重3層の天守閣は望楼式天守で、北陸地方唯一の現存天守です。</p>	<p>【マップ】</p>	

【詳細】
1～10

11		<p>桜吹雪舞う悠久の山里 竹田</p> <p>しだれ桜が咲く美しい竹田の里では、毎年4月にしだれ桜まつりが開かれ、6万人を超える観光客で賑わい、訪れた人をしだれ桜の世界に引き込みます。</p>	【マップ】
12		<p>命育む母なる大河 九頭竜川</p> <p>勝山市にある法恩寺山（標高1,357m）からは、雄大に流れる九頭竜川と勝山の市街地を一望できます。晴れた日には、福井平野まで見渡すことができ、ダイナミックな眺望を楽しめます。</p>	【マップ】
13		<p>風を浴びて 永平寺から福井に続く自転車道</p> <p>永平寺から福井までの区間にはサイクリングの楽しめる道が続いています。特に鳴鹿大堰から福井運動公園までの主に堤防沿いには総延長26kmの「永平寺福井自転車道」が整備され、長く続く自転車道を走れば、河川沿いのシバザクラや菜の花などの自然景観が楽しめます。</p>	【マップ】
14		<p>禅の修行道場 永平寺</p> <p>今から約760年前の寛元2年（1244年）、坐（禅）を重んじた道元禅師によって開かれた永平寺は、雲水と呼ばれる修行僧2百余名が日夜修行にはげむ日本曹洞宗の大本山です。約10万坪の境内には、七堂伽藍（しちどうがらん）を中心に約70の建物が並び、老杉や石畳などと一体となった風景が見られます。</p>	【マップ】
15		<p>仰ぎ見る白い頂 霊峰白山</p> <p>勝山盆地を雄大に流れる九頭竜川、その背後には、たおやかな加越の山並み（越前甲（かぶと）、経ヶ岳、法恩寺山など）が連なり、さらに背後に白山連峰が見えるパノラマ状の眺望は、勝山でしか見ることができない景観です。</p>	【マップ】
16		<p>恐竜が眠る大地 ジオパーク 勝山</p> <p>福井県立恐竜博物館は、勝山市の東部に位置し、美しい田園・自然景観に引き立つシンボリック景観を形成しています。村岡山（むろこやま）山頂からは恐竜博物館とその周辺の「かつやま恐竜の森」を眺めることができます。</p>	【マップ】
17		<p>春を待つ北谷の山里集落</p> <p>石川県境に程近い勝山市北谷町は、滝波川がつくりだした段丘上に集落が点在する静かな山里集落です。北谷7集落の1つ、木根橋では、白壁や土壁の建物が立ち並び、生活の必需品である薪があちこちに積まれており、昔ながらの山里集落景観を見ることができます。</p>	【マップ】
18		<p>「蝶よ花よ」と囃子が響く 城下町勝山の町並み</p> <p>城下町時代の中心街であった本町通り周辺では、古くから五穀豊穡と鎮火を祈願する神事として、勝山左義長（さぎちょう）まつりが行われます（2月最終土日開催）。藩政時代からおよそ300年の歴史をもつ勝山の一大行事で、太鼓や三味線での賑やかな左義長囃子とカラフルな色彩の短冊が祭りを彩っています。</p>	【マップ】
19		<p>中世宗教都市の歴史を物語る 白山平泉寺</p> <p>白山平泉寺は、かつての境内が約200haに及ぶ全国屈指の広さをもつ国の史跡です。平泉寺は養老元年（717年）泰澄大師によって開かれたと伝えられ、白山信仰の越前側の拠点として、最盛期には48社36堂6千坊、僧兵8千人の巨大な宗教都市を形成していました。</p>	【マップ】
20		<p>懐かしい機織りの音が聞こえる 奥越のまち</p> <p>かつて、勝山の大きな機織場では、全国各地から数多くの集団就職者を受け入れ、最盛期には1千数百名が就業していたほど、繊維産業が栄えていました。勝山の市街地には、繊維工場の工場棟が立ち並び、当時の隆盛を偲ぶ風景をみることができます。</p>	【マップ】

【詳細】
11～20

21		<p>大地鳴動の記憶 奥越の巨大岩塊</p> <p>大野市の阪谷地区には、田んぼの真ん中や河川のほとりなどに巨大な岩塊をみることができます。この岩塊は、地元では「伏石(ぶくいし)」とよばれており、数万年前に地震や地殻変動などの影響で経ヶ岳(標高1,625m)が山体崩壊し、そのときの土砂が流れ下り集まってできたと考えられています。</p>	【マップ】	
22		<p>城、町並み、朝市、風情漂う城下町 大野</p> <p>大野市街地は、基盤目状に整備された城下町です。かつて織田信長の家臣 金森長近(かなもりながちか)が越前大野城を築き、城下町を武家屋敷や町人屋敷、寺町などに分け分けて整備しました。400年余りを経た今でもそのまち並みが残る歴史と情緒あふれる町となっています。</p>	【マップ】	
23		<p>イトヨが生息する名水の里 大野</p> <p>広大な森林を持つ大野市は湧き水の宝庫であり、まちの至るところで清水(しょうず)を目にすることができます。なかでも大野市糸魚(いとよ)町にある本願清水(ほんがんしょうず)は、名水のまち大野をつくり上げた原点であり、かつて、伏流した地下水があちこちで顔を出していたことから、この地を一段深く掘り下げて、町用水の水源地として整備したのが本願清水の始まりと伝えられています。</p>	【マップ】	
24		<p>日本百名山 荒島岳</p> <p>大野盆地の南東にそびえる荒島岳(標高1,523m)は、その姿形が美しく、日本百名山に選ばれています。「大野富士」とも呼ばれるこの山は、古くから信仰の山としてあがめられるとともに、人を簡単に寄せ付けない神秘の霊山として恐れられ、山頂には祠(ほこら)が祭られています。大野市街地や勝山方面から見る美しい姿は、奥越の自然風景の中でも格別なものです。</p>	【マップ】	
25		<p>越美国境からの清らかな流れ 真名川</p> <p>真名峡は、大野市の真名川上流域、五条方(ごじょうほう)発電所の約1km上流から真名川ダム付近にかけて発達する深い峡谷で、県内屈指の景勝地です。谷の両壁は急斜面をなし、谷底が著しく深いため、水面の深青色が斜面の森林の緑とあいまって、美しい自然景観を形成しています。</p>	【マップ】	
26		<p>日本一の星空を仰ぐ 六呂師高原</p> <p>六呂師高原は、大野市北東部、勝山市との境にある経ヶ岳(標高1,625m)のふもとに広がる標高520~850mの高原状の溶岩台地で、全国の星空の街コンテストで星の美しい街に選ばれました。「星のふる里」をテーマにプラネタリウムを備えた自然保護センター、観察棟などの施設を整え、自然科学に親しむ場としても注目を集めています。</p>	【マップ】	
27		<p>紅葉の刈込池に映る白雪の三ノ峰</p> <p>打波川の上流の願教寺山(標高1,690m)のふもとには、ブナやミズナラなどの原生林に囲まれた刈込池(周囲400m、水深最大4.5m)があります。紅葉の季節には、鮮やかに色づいたブナやモミジが水面に映り、神秘的な光景を見ることができます。</p>	【マップ】	
28		<p>鮮やかな四季の移ろい 九頭竜湖</p> <p>豊かな自然に恵まれた九頭竜湖は、春の桜、秋の紅葉、冬の雪景色など、四季折々の美しさがあり、その雄大な姿はいつ見ても絶景です。九頭竜湖に架かる箱ヶ瀬橋は夢のかけ橋とも称されており、豪快な山岳風景と広大なダム湖に優雅に溶け込んでいます。</p>	【マップ】	
29		<p>らっきょうの花咲く 三里浜</p> <p>三里浜の砂丘地では、らっきょうの生産が盛んで、10月下旬から11月中旬になると、鮮やかな赤紫色のらっきょうの花が一面に咲き誇り、この地の風物詩となっており、秋の砂丘地に彩を添えます。</p>	【マップ】	
30		<p>福井ゆかりの武将を偲ぶ墓所</p> <p>県内では、数多くの武将を偲ぶ墓所や廟所(びょうしょ)がある風景を見ることができます。福井市田ノ谷町にある大安禅寺には、「千畳敷」と呼ばれる壮大な廟所があり、松平家歴代藩主やその家臣などの墓石が整然と立ち並んでいます。</p>	【マップ】	

【詳細】
21~30

31		<p>秋風に揺れる1億の花 コスモス広苑</p> <p>宮ノ下地区のコスモス広苑は、約17.5ha（東京ドーム10個分）の広さがあり、約1億本のコスモスが咲きほこっています。そよ風に踊るコスモスの中をゆっくり歩くと、心も穏やかになり、とてもリラックスできます。</p>	【マップ】
32		<p>福井のシンボル 歴史と自然の足羽山</p> <p>足羽山は、福井平野の中心に位置する標高116mの低い山ですが、市内に残された緑地として散策を楽しむ人も多く、市民の憩いの場となっています。愛宕坂(あたごさか)は、かつて、山頂付近にある足羽神社の参道として開かれました。平成12年に笏谷石を使い、再整備されており、毎年秋にライトアップされています。</p>	【マップ】
33		<p>試練を乗り越え咲き誇る 足羽川桜並木</p> <p>福井市中心部を流れる足羽川の木田橋から新明里(あかり)橋にかけて、左岸側堤防約2kmに渡って桜並木が続きます。春になると壮大な桜のトンネルが、多くの人たちを楽しませてくれます。</p>	【マップ】
34		<p>路面電車が走る 福井の街角</p> <p>福井市内には、西洋の建築様式を用いた近代建築物が今も残っており、その前を路面電車が走る風景は福井なじみのものとなっています。福井地方裁判所は空襲や震災で焼失しましたが、福井復興のシンボルとして昭和28年に再建され、その独特の色と造りには格式高い雰囲気があります。</p>	【マップ】
35		<p>68万石の大藩の面影 福井城址</p> <p>福井城は1600年に越前に入った徳川家康の次男結城秀康により、約6年をかけて築かれました。内堀、石垣、天守台が残っており、藩主専用の通路として使用されていた「御廊下橋(おろうかばし)」が平成19年度に復元されました。福井城址は、桜の名所としても有名です。</p>	【マップ】
36		<p>幕末四賢侯 春嶽公の別邸 養浩館</p> <p>かつて福井城外堀に面していた旧福井藩主松平家の別邸は、明治になってから第16代藩主の松平春嶽により、養浩館と名付けられました。優雅な屋敷を取り巻く大きな池を中心とした回遊式林泉庭園は、江戸中期を代表する貴重な名園として知られています。</p>	【マップ】
37		<p>歴史に刻まれた名石 笏谷石のふるさと</p> <p>笏谷石(しゃくだにいし)は福井を代表する石材で、名前は採掘地の地名から由来しています。古墳時代から足羽山で採掘され、石仏、神社の敷石、石灯籠、石畳、瓦と、時代を問わず身近な石材として重宝されてきました。水に濡れると、独特の深い青緑色に変化し、より笏谷石らしい暖かみを感じることができます。</p>	【マップ】
38		<p>西行が讃えた 朝六つ橋から見た文殊山</p> <p>文殊山(標高365m)は福井市と鯖江市の境界に位置し、古来より越前五山のひとつとして崇められてきました。文殊山は角原(つのはら)からの眺めが富士山に似ているため「角原富士」とも呼ばれています。</p>	【マップ】
39		<p>清らかなせせらぎ 東郷の町並み</p> <p>東郷地区は、朝倉氏が一乗谷に拠点に移した頃から、その支城である東郷城の城下町として発展してきました。現在も街道の中央を堂田川(どうでんがわ)が流れ、安らぎのある豊かな「ふるさと」の風情が漂っています。その姿は、司馬遼太郎の「街道をゆく～越前の諸道」に、“美しい在所”と記されているほどです。</p>	【マップ】
40		<p>朝倉氏五代の栄華の跡 一乗谷</p> <p>一乗谷は、戦国時代朝倉氏五代の城下町として栄えました。最後の当主朝倉義景は、織田信長との戦いに敗れ、一乗谷は神社仏閣、居館から町屋に到るまで火が放たれ、すべてが灰に帰りました。季節と共に移ろいゆく景色からは、城下1万人とうたわれた栄華の時を思い起こすことができます。</p>	【マップ】

【詳細】
31～40

41		<p>七たび渡る足羽川 美山の越美北線</p> <p>大きく蛇行する足羽川に、何度も鉄橋で川を渡っていく越美北線。越美北線は、JR北陸本線の福井～九頭竜湖間を結ぶ、全長55kmの路線です。一乗谷駅から美山駅間は7つの鉄道橋があり、杉の山林や足羽川の流りに調和した美しい景観となっています。</p>	【マップ】	
42		<p>人と自然が育てた 美山の杉林</p> <p>福井市美山地区は山林面積が約9割を占めており、古くから林業が盛んで、全国有数の大径木の生産地として知られています。山間部では積雪が2mを超えるところもあるため、春には雪の重みで倒れた杉を起こす作業を行うなど、日々の地道な作業が美山の杉を支えています。</p>	【マップ】	
43		<p>足羽川源流 冠山と龍双ヶ滝</p> <p>池田町と岐阜県境に位置する冠山（標高1,257m）は、「21世紀に残したい日本の自然100選」に選ばれた山です。この山の表情は実に多彩で、冬から春にかけては雪も多く、人を寄せ付けぬ厳しさを持ちますが、初夏から秋には、自然100選に恥じないほどの雄大な姿を見せ、また、高山植物やニッコウキスゲなどの花が咲き、登山客を楽しませてくれます。</p>	【マップ】	
44		<p>伝統息づく能楽の里 池田</p> <p>池田町水海の鶴甘（うかん）神社において、毎年2月15日に奉納されている「水海の田楽能舞」。およそ750年にわたり受け継がれ、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。由来は、鎌倉幕府の執権、北条時頼が諸国行脚の際、村人達が田楽を舞って時頼を歓待した返礼として、時頼が「能舞」を教えたと言われています。</p>	【マップ】	
45		<p>農の営みが見える 池田の原風景</p> <p>池田町には、農業と結び付いた風景が多く残っています。町では、生ごみを回収して作った堆肥で土をつくることにより、土本来の豊かさを取り戻し、そこで農薬の使用を極力減らした町独自の「池田町ゆうき・げんき正直農業」に取り組んでいます。</p>	【マップ】	
46		<p>近松文学のふるさと 吉江</p> <p>鯖江市の吉江町界隈は、江戸時代に、福井藩の支藩である吉江藩の城下町で、当時の面影を今に伝えています。「吉江七曲り」は城下町特有の道路割で、その名のとおり道路が七つの鉤型に曲りながら町並みを貫いています。かつては武家屋敷が建ち並んでいましたが、現在も旧家の古風な塀垣が当時を偲ばせてくれます。</p>	【マップ】	
47		<p>つつじの絨毯 西山公園</p> <p>鯖江市民憩いの場、西山公園は、約5万株のつつじが咲き乱れる日本海側随一のつつじの名勝で、「日本の歴史公園100選」にも選ばれています。春のさくら、初夏のつつじ、秋のもみじ、冬の雪つりなど四季折々の景観が楽しめ、「つつじまつり」や「もみじまつり」には多くの人で賑わいます。</p>	【マップ】	
48		<p>門前町と城下町の面影 鯖江の町並み</p> <p>鯖江は、中世には親鸞聖人ゆかりの本山誠照寺（じょうしょうじ）の門前町として、また、近世には鯖江藩5万石の城下町として栄えました。門前の通り沿いには、寺院などが建ち並び、歴史の風情のある町並みが残されています。</p>	【マップ】	
49		<p>越前漆器の伝統受け継ぐうるしの里 河和田</p> <p>河和田地区を中心として生産されている越前漆器は、1500年余の歴史と伝統を誇り、その優雅さと堅牢さは全国でも有名で、国の伝統的工芸品に指定されています。河和田町の中道や大門通り沿いには、漆器工房や黒瓦屋根の家並みなど「うるしの里」にふさわしい町並みが残されています。</p>	【マップ】	
50		<p>紫式部が詠んだ 日野山・日野川</p> <p>越前市の市街地から見える日野山（標高795m）は、その山容の美しさから「越前富士」とも言われ、越前の国司となった父とともにこの地に来た紫式部は、雪に覆われた日野山を見て歌に詠んでいます。日野川は南越前町を源に、日野山の西側を越前市から鯖江市へと北流し、九頭竜川へと合流する延長約66キロの清流です。</p>	【マップ】	

【詳細】
41～50

51		<p>昔懐かしい福武線の木造駅舎</p> <p>福井鉄道福武線の北府駅(きたごえき)と神明駅は、大正13年(1924年)に建てられた木造建築の駅舎で、大正時代そのままの姿を残しており、レトロな雰囲気を味わえます。北府駅は、携帯電話会社のテレビコマーシャルの撮影舞台にもなりました。</p>	【マップ】	
52		<p>丹南のレトロな洋風建築物との出会い</p> <p>戦災、震災に遭わなかった武生・鯖江のまちなかを散策すると、明治建築からモダニズムまで、レトロな洋風の建物が各所に見られます。越前市内の建物としては、女生(じょうせい)幼稚園や武生公会堂記念館、M工房(旧武生郵便局)などが有名です。また、鯖江市内の建物としては旧鯖江地方織物検査所、恵美写真館などが有名です。</p>	【マップ】	
53		<p>菊の香漂う越前の国府 武生</p> <p>武生市(現在の越前市)は「大化の改新」の頃から約1300年近くも越前国府が置かれました。慶長6年(1601年)、福井藩主結城秀康より3万7千余石を拝領し府中城主となった本多富正は、戦乱により荒廃した町の中心に北陸道を通し、城下町を整備するなど現在の越前市の基礎を築きました。その面影は今も残り、寺町通りと呼ばれる京町界隈には、由緒ある神社仏閣や、昔ながらの町屋が数多く点在し、落ち着いた風情を感じさせてくれます。</p>	【マップ】	
54		<p>1500年の伝統 越前和紙の里</p> <p>越前市の五箇(ごか)地区は、瓦屋根の伝統的民家が集積し、背後の山並みと調和した緑豊かな集落景観を形成しています。五箇地区は、和紙の伝統工芸が発達し、日本一の手漉き技術を誇ると言われ、和紙の里とも呼ばれています。越前和紙は、日本最初の紙幣とされる「福井藩札」に使われました。また、明治新政府が発行した「太政官札」にもその品質の高さから越前和紙が採用されました。</p>	【マップ】	
55		<p>小次郎と長寿の水の伝説 水間谷</p> <p>剣豪佐々木小次郎は越前市今立地区の水間谷で生まれたと伝えられています。水間川の支流、岩窟谷(がんくつだに)川沿いを権現山(標高565m)へ登っていく途中にある柳の滝は、大小5つの滝で成り立っており、伝説によると、小次郎がこの滝で「ツバメ返し」の秘剣を編み出したと言われ、その大瀑布は見るものを圧倒します。</p>	【マップ】	
56		<p>万葉の恋物語の舞台 味真野</p> <p>奈良時代、味真野の地に流された中臣宅守(なかとみのやかもり)と聖武天皇に仕える女官狭野弟上娘子(さのおとがみのおとめ)の間で情熱的な恋の歌が交わされました。味真野苑では万葉集に収められた代表的な15首が歌碑に刻まれています。味真野小学校の校庭の真ん中には樹齢130年余りの桜の大木があり、見頃になると大勢の花見客が訪れます。</p>	【マップ】	
57		<p>コウノトリ舞う里山よふたび 白山・坂口</p> <p>越前市西部に位置する白山・坂口地区は、標高300m前後の里山に囲まれた小盆地で、「にほんの里100選」にも選ばれた昔ながらの農村風景が残っている地域です。平成22年4月1日に2羽のコウノトリが白山地区に40年ぶりに舞い降り、このうち1羽は越前市に107日間長期滞在して「えっちゃん」の愛称で親しまれました。</p>	【マップ】	
58		<p>馥郁(ふくい)たる香り 越前水仙</p> <p>冬の越前海岸を美しく彩るものとして、12月中旬から2月上旬にかけて開花する越前水仙の群生は代表的な景観です。このあたりは、房総半島、淡路島に並ぶ日本水仙の三大群生地の一つで、海岸段丘を利用した山麓畑に栽培されています。</p>	【マップ】	
59		<p>釜茹での湯気立つ 越前がにの水揚げ港</p> <p>県内には多くの漁港と漁村集落が存在していますが、その代表的なものとして、越前海岸沿いの越前漁港があります。海と山に挟まれた国道305号沿いには民家や旅館、鮮魚店などがひしめきあうように軒を連ね、漁師町らしい景観が続きます。越前がに漁のシーズンである毎年11月6日から3月20日までの期間は、漁師町はさらに活気づきます。</p>	【マップ】	
60		<p>日本海の荒波が造った奇岩・奇勝 越前海岸</p> <p>越前海岸は、典型的なリアス(沈降)式海岸の若狭湾とは対照的に、甲楽城(かぶらぎ)断層を境とした隆起海岸です。そのため日本海の激しい波浪を受けて、呼鳥門(こちょうもん)に代表される奇岩や、鳥糞岩(とりくそいわ)のような海蝕崖(かいしょくがい)が自然の力でつくられています。</p>	【マップ】	

【詳細】
51～60

61		<p>泰澄大師修行の霊峰 越知山</p> <p>越知山（おちさん）（標高613m）は、丹生山地西部に位置し、「越の大徳（こしのだいどこ）」と呼ばれた泰澄大師が開山し、青年の頃まで修行した場所と伝えられています。山頂には、越知神社をはじめ、奥の院や社務所、別山などが配され、神仏習合の山岳霊場として栄えました。</p>	【マップ】	
62		<p>太鼓響く鎮守の森 信長公ゆかりの劔神社</p> <p>劔（つるぎ）神社は、約1,800年の歴史を持ち、敦賀市の気比（けひ）神宮に次ぐ越前二の宮として知られ、現在も幅広い信仰を集めています。同神社に毎年奉納される「明神ばやし」や各集落に伝承される「だいすり太鼓」など、この地は古くから太鼓文化が盛んで、毎年8月中旬、全国から太鼓奏者が一堂に会する太鼓フェスティバル「O・TA・I・KO響」がオタイコヒルズで開催され、ダイナミックなバチ捌きの競演が繰り広げられます。</p>	【マップ】	
63		<p>日本六古窯 越前焼のふるさと</p> <p>越前焼は、平安時代末期に生まれ、瀬戸・常滑・信楽・丹波・備前と並び日本六古窯（ろくこよう）の一つに数えられています。長い歴史の中では衰退の危機もありましたが、昭和46年、最初に窯が築かれたといわれる、越前町小曾原（おぞわら）に越前陶芸村が建設され、これを契機に多くの窯元が集まり再び伝統の息吹がよみがえり、今日に至っています。</p>	【マップ】	
64		<p>農村の伝統美 漆喰の白壁民家群</p> <p>県内には、地域の文化とともに洗練されてきた特有の形態・意匠をもった伝統的民家が存在し、地域性・独自性に富んだ美しい集落景観を形成しています。特に、福井市の南部から丹南地域にかけては、漆喰（しっくい）の白壁が美しいどっしりとした農家の風景が至るところに広がっています。</p>	【マップ】	
65		<p>生産量日本一 南条花ハスの里</p> <p>南越前町南条地区は日本を代表する花ハスの生産地で、生産量は日本一を誇っています。毎年7月中旬から8月中旬にかけて、南条地区のあちらこちらで花ハスの色鮮やかな花びらが開きます。見るものの心に不思議な安らぎを与えるその優美な姿は、背景の山々とあいまって、優しい光景を創り出します。</p>	【マップ】	
66		<p>軍事・交通の要衝 北国街道宿場町 今庄</p> <p>今庄宿は木ノ芽峠を越える西近江路と栃ノ木峠を越える東近江路がここに集まり重要な宿場町として発展しました。現在もなお昔ながらの造り酒屋や民家など、往時の面影を色濃く残しています。毎年9月に行われる羽根曾（はねそ）踊りは、宿場町が栄えるにつれて盆踊りとなり街道を通る旅人の心をなぐさめたといわれています。</p>	【マップ】	
67		<p>竜神伝説 夜叉ヶ池</p> <p>夜叉ヶ池（やしやがいけ）は、福井県と岐阜県の境、三国ヶ岳の北側、周囲は原生林におおわれた標高1,090mの山頂付近にある周囲約230m、最深7.8mの池です。古来より竜神伝説や雨乞いの池として名高く、毎年6月初旬に山開きの神事が行われ、四季折々に姿を変える夜叉ヶ池は、とても神秘的で多くの人々が訪れます。</p>	【マップ】	
68		<p>今に伝わる 明治の石積み砂防堰堤</p> <p>県内には、明治時代に築造されてから、100年以上たった今もその機能を発揮している砂防堰堤（えんてい）があります。石と石との間をコンクリートなどで固めずに、石をうまく組合せて積む空石積工法の堰堤は、自然の地形かと見間違えそうなほど周囲の自然景観と溶け込みながらその役割を果たし続けています。</p>	【マップ】	
69		<p>海の道と馬借（ばしゃく）街道の中継港 河野</p> <p>南越前町河野は、江戸から明治時代にかけて行き交った北前船の船主を輩出した集落です。船主の邸宅は山側の旧道沿いに建ち並び、その家並みは往時の繁栄ぶりを偲ぶことができる景観です。また、交通の要所であった木ノ芽峠を通らず、敦賀から海路で河野浦に渡り、そこから陸路で府中（現越前市）に物資を運んでいた馬借（ばしゃく）街道が残っており、生活を支えていた光景を偲ぶことができます。</p>	【マップ】	
70		<p>山を越え海を越えた鉄道 今庄～敦賀</p> <p>敦賀市から南越前町にかけては、福井の発展を支えた近現代の数多くの鉄道景観を見ることができます。敦賀市刀根の集落付近には、旧北陸本線（昭和39年廃止）の路線が通っていた小刀根トンネルが往時を偲ばせる姿で残されており、トンネル上部には「明治14年」と刻まれた要石が現在も残っています。</p>	【マップ】	

【詳細】
61～70

71		<p>美味しいそばの原点 福井のそば畑</p> <p>9月から10月にかけて、白く可憐な花が咲き誇るそば畑の風景を県内のいたるところで見ることができます。そばは、旧盆をすぎた頃に種がまかれ、白い花が咲き終わると黒い実になる11月上旬から収穫がはじまります。種まきから収穫まで、その作業ごとに農村風景は色合いを変えていきます。</p>	【マップ】	
72		<p>敦賀湾の大パノラマ 杉津の眺望</p> <p>杉津パーキングエリアは、北陸本線旧線（昭和37年廃線）の杉津駅の跡地に建設されました。杉津駅は、かつて「北陸線屈指の車窓風景」と車内アナウンスされたほどの景勝地であり、大正天皇を乗せたお召し列車が、その絶景に見惚れて暫く汽車の発車を遅らせたという逸話も残っており、杉津パーキングエリアからは、この逸話を思い起こさせるような素晴らしい景観を見ることができます。</p>	【マップ】	
73		<p>手付かずの自然が残る池河内湿原・中池見湿地</p> <p>敦賀市内をゆったりと流れる笙（しょう）の川の源流付近に位置する池河内（いけのこうち）湿原は、周囲を山で囲まれた約4haの湿原です。通称「阿原ヶ池（あわらがいけ）」の名前で敦賀市民に愛されているこの一帯は、まだまだ手付かずの自然が残っており、生き物たちの楽園となっています。また、敦賀市の市街地東に隣接する中池見湿地は、風の音、野鳥のさえずりや虫の声、木々の香りなど、四季折々の表情を見せてくれます。</p>	【マップ】	
74		<p>運河の遺跡 疋田舟川</p> <p>江戸時代から宿場町として発達した疋田（ひきだ）地区では、町並みの中央を貫く立派な水路を見ることができます。これは、敦賀港から京都に向けて物資を輸送するために設けられた運河（舟川）の遺構で、この舟川を海産物等の物資を積載した船が往来しました。</p>	【マップ】	
75		<p>360° 展望の頂 野坂岳</p> <p>敦賀市南西部にそびえる野坂岳（標高914m）は、弘法大師により見出されたという伝承を残し、市内どこから見ても変わらないその姿は「敦賀富士」とも呼ばれ、古代よりその美しさを称えられた山です。野坂岳には登山道が整備されており、片道約2時間で360度周囲が開けた山頂にたどり着くと、そこから敦賀市全体を見渡すことができます。</p>	【マップ】	
76		<p>そびえる大鳥居 北陸の総鎮守 氣比神宮</p> <p>市民に「けいさん」の愛称で親しまれる氣比（けひ）神宮は、大宝2年（702年）の建立と伝えられており、7柱のご祭神を祀る北陸道の総鎮守として、敦賀の発展を見守っています。春日大社（奈良県）、巖島神社（広島県）と並ぶ日本三大木造大鳥居の一つとされる高さ11mの大鳥居は、まさに敦賀のシンボルにふさわしい堂々たる姿を見せています。</p>	【マップ】	
77		<p>アジア大陸との交易拠点 国際港敦賀</p> <p>敦賀港は敦賀湾奥部に位置する天然の良港として、古くから我が国各地域とアジア大陸を結ぶ交易拠点として栄えてきました。1945年の大空襲の際にも奇跡的に焼失を免れた舟溜り地区には、昭和2年に竣工した旧大和田銀行本店建物（現敦賀市立博物館）、400年の歴史を誇る敦賀酒造の酒蔵、赤レンガ倉庫をはじめ、港都つるがの繁栄を示す景観が数多く残っています。</p>	【マップ】	
78		<p>日本三大 氣比の松原</p> <p>三保の松原（静岡県）、虹の松原（佐賀県）と共に日本三大松原として知られる氣比（けひ）の松原は、40万㎡の広さの中に17,000本の松が生い茂る国の名勝地です。夏になると京阪神、中京からの海水浴客による賑わいなど、季節・時間によって様々な姿を見せてくれます。</p>	【マップ】	
79		<p>コバルトブルーの海 水島と色ヶ浜</p> <p>敦賀湾に面し透き通った波に洗われる色ヶ浜の近くには、砂の小島2つからなる水島が浮かび、別名「北陸のハワイ」とも呼ばれています。目の前に広がる色ヶ浜の穏やかな海の表情からは、西行・芭蕉の受けた感動を味わうことができます。</p>	【マップ】	
80		<p>碧く輝く海と白い砂浜 水晶浜</p> <p>美浜の名前が示すとおり、美しい海辺の風景は、美浜町の最大の魅力となっています。中でも「水晶浜」は、日本海の澄んだ水と、きめ細やかな白い砂浜が広がり、水の透明度などを基準に選ばれる「日本の水浴場88選」にも選ばれています。</p>	【マップ】	

【詳細】
71～80

81		<p>海と湖に挟まれた伝統行事息づく漁村 日向、早瀬</p> <p>若狭湾とつながる日向（ひるが）湖の湖畔に位置する日向地区には、若狭湾の波の荒々しさと、日向湖の湖面の穏やかさに挟まれた、天然の純漁村が広がっています。毎年1月には、色とりどりの大漁旗が張り渡された中、約360年前から守り継がれた水中綱引きが行われます。</p>	【マップ】	
82		<p>山頂から望む絶景 三方五湖</p> <p>雄大な自然が創り出した若狭の水郷「三方五湖」は、若狭湾国定公園を代表する景勝地であり、万葉集にも歌われているなど古の時代から広く知られた、四季折々の美しさを持つ優雅な湖です。三方五湖は、低いゆるやかな丘陵性の山々に囲まれ、温和さと素朴さにあふれた自然美を形成しています。</p>	【マップ】	
83		<p>天狗が踊る 王の舞</p> <p>美浜町宮代地区の東、御岳山の西山麓に位置する弥美（みみ）神社では、毎年5月1日の祭礼において、王の舞が奉納されます。王の舞は宮廷などで行われる舞楽の系統に属するものといわれ、若狭地方を中心に数々の神社で奉納されてきたものです。若狭町気山地区の宇波西（うわせ）神社でも、毎年4月8日に王の舞が奉納され、人々は豊作の祈願や感謝のために神に働きかけます。</p>	【マップ】	
84		<p>神宿る半島 若狭常神</p> <p>若狭湾国定公園の見どころのひとつ常神半島は、特に海水の透明度が高く、海中景観が優れていることから、海城公園地区に指定されています。常神半島の島の名前は神功（じんぐう）皇后を祀る常神社（つねかみしゃ）に由来するといわれ、また半島から500m西には無人島の御神島（おんがみじま）があり、かつてこの島には神が住んでいて、様々な厄災から人々を守ってきたといわれています。</p>	【マップ】	
85		<p>湖畔に佇む茅葺きの舟小屋</p> <p>福井県は日本海側最大級の梅の産地で、なかでもこの若狭町三方地域は県内の半数以上の梅農家が集まり、三方五湖湖畔には約7万本の梅林が広がっています。また、湖沿いに残っている茅葺きの舟小屋は、向かいの梅畑や水田での農作業に用いる小舟を格納するためのもので、県内でも珍しい景観です。</p>	【マップ】	
86		<p>真夏の冷水 名水百選 瓜割の滝</p> <p>若狭町天徳寺境内奥に位置する「瓜割の滝」は、山あいの岩間から湧き出る清泉で、一年を通して水温が変わらず、水につけておいた瓜が割れるほど冷たいことから、その名前がつけられました。滝周辺は元々「水の森」と呼ばれ、修験者の修行地であり、朝廷の雨乞いを司るところであったといわれています。</p>	【マップ】	
87		<p>若狭から京へ続く鯖街道 熊川宿</p> <p>福井県小浜市から京都の出町柳を結ぶ「若狭街道」は、主に鯖などの魚介類を運ぶことが多かったことから、いつ頃からか「鯖街道」と呼ばれるようになりました。「鯖街道」の道中にあたる若狭町には、宿場町として発展した「熊川宿」があります。昔の町家が約1.1kmの道の両側に建ち並び、当時の賑わいが思い起こされます。</p>	【マップ】	
88		<p>荒波の彫刻 蘇洞門</p> <p>小浜市は、外海の若狭湾と内海の小浜湾に面しています。外海の若狭湾は日本海側では珍しいリアス式海岸で、たいへん波が強く、沖の内外海（うちとみ）半島の先端には、永い年月をかけて波によって削られた「蘇洞門（そとも）」と呼ばれる6kmにわたる壮大な奇岩・洞窟などが見られます。</p>	【マップ】	
89		<p>豊富な海産物と若狭塗 御食国若狭おばま</p> <p>若狭は古来、朝廷に海産物を納める「御食国（みけつくに）」と呼ばれ、特に小浜は豊富な海産物が水揚げされる食文化の発達した都市です。鯖街道の起点である「いづみ町」での焼き鯖、小浜漁港での水揚げなど、食文化に根ざした風景があらこちらで見られます。</p>	【マップ】	
90		<p>茶屋町の情緒漂う紅殻格子 三丁町</p> <p>小浜市小浜西組地区は重要伝統的建造物群保存地区に選定され、丹後街道が東に折れ曲がる周辺を境にして、東に商家町、西に茶屋町、後瀬（のちせ）山麓および西端部には寺町が形成されています。茶屋町があったところは三丁町と呼ばれ、紅殻格子（べんがらこうし）などを有した家並みが建ち並び、落ち着いた雰囲気を感じさせます。</p>	【マップ】	

【詳細】
81～90

91		<p>古刹と仏像の宝庫 大陸の玄関口 小浜</p> <p>古来より大陸の玄関口として栄え、仏教文化の伝来ルートであった小浜市には、数多くの古刹（こさつ）が残されています。本堂と三重塔が国宝の明通寺、名勝となっている萬徳寺の庭園、重要文化財となっている羽賀寺の十一面観音立像や妙楽寺の千手観音立像など、仏教の歴史の重みを感じさせる貴重な寺や仏像を見ることができます。</p>	【マップ】	
92		<p>若狭から奈良への歴史大河 お水送り</p> <p>神事「お水送り」は約1200年の歴史があり、ほら貝が響き、松明（たいまつ）が揺れる河原で、白装束の僧たちが「お香水（こうずい）」を鶴（う）の瀬に注ぐ幻想的な伝統行事です。3月2日の夜に、神宮寺の井戸から汲み上げられた「お香水」を白装束の僧たちが2キロ上流の「鶴の瀬」に運び、遠敷川に注ぎます。注がれた水は10日間かけて、奈良・東大寺二月堂の若狭井に届くと伝えられています。</p>	【マップ】	
93		<p>海が舞台の炎の祭 大火勢</p> <p>おおい町の大島半島と陸の間の青戸入江の湾内で毎年8月上旬に開催される「若狭おおいのスーパー大火勢（おおがせ）」は、真夏の夜に行われる勇壮・豪快な祭りです。300年余りの伝統を持つ福谷の大火勢は県無形民俗文化財に指定されています。あたりが暗くなった頃、松明（たいまつ）行列が幻想的な太鼓と笛の音にあわせて火の河となって進みはじめます。闇夜に浮かび上がる炎の輪は、とても力強く幻想的な風景です。</p>	【マップ】	
94		<p>水上文学のふるさと 佐分利川</p> <p>旧大飯町の中心を流れる佐分利（さぶり）川。佐分利川沿いに広がる水田と囲まれた山々がのどかな風景を醸し出しています。川沿いには8kmにも及ぶ桜並木が連続し、地域の人々に安らぎを与える存在となっています。</p>	【マップ】	
95		<p>星降る村 安倍晴明ゆかりの名田庄</p> <p>小浜湾に注ぐ南川の上流に沿って建ち並ぶ名田庄の集落。平安時代の有名な陰陽家・安倍晴明を始祖とする土御門家ゆかりの地として知られています。集落の中には昔ながらの茅葺き屋根も見え、誰もが懐かしさを覚える山里の風景が広がっています。名田庄の恵まれた自然環境と調和した風景は、訪れた人々を落ち着いた気分させてくれます。</p>	【マップ】	【詳細】 91～100
96		<p>瓦屋根が連なる 高浜・旧丹後街道</p> <p>高浜町の中心部である高浜地区から和田地区にかけての旧丹後街道周辺地域は、古くは海産物の運搬や巡礼者の往来する街道、近年は、海水浴客のための旅館・民宿街として発展してきました。周辺の小高い山から見ると、白い砂浜が広がる弓なりの海岸線に昭和初期の時代を思わせる瓦葺屋根が連なる眺望景観が楽しめます。</p>	【マップ】	
97		<p>足利義満が愛でた奇勝 明鏡洞</p> <p>室町時代に築城された高浜城の跡地である城山公園には、長い年月をかけて日本海の荒波がつくりあげた「八穴（やな）の奇勝」と呼ばれる八つの大きな洞穴があり、特にその一穴である「明鏡洞（めいきょうどう）」では、穴の彼方に見える水平線が美しく感じられます。</p>	【マップ】	
98		<p>海にそびえ立つ若狭富士 青葉山</p> <p>京都府との境に若狭湾を見下ろすようにそびえる青葉山（標高693m）。高浜町の海岸線から見える姿はなだらかな稜線が美しく、「若狭富士」と呼ばれています。青葉山は、白山信仰の祖で8世紀の高僧・泰澄大師が白山比咩（ひめ）神社を分祀（ぶんし）して開いたとされており、古くから庶民にあらがめられてきた信仰の山として親しまれています。</p>	【マップ】	
99		<p>静かな海、棚田、漁村 風光明媚 内浦湾</p> <p>内浦湾は、福井県と京都府の県境にある内湾です。外海に面した側には海蝕崖（かいしよくがい）が発達し、中でも「音海（おとみ）断崖」は海面からの高さが260m以上にも達する日本海側でも有数の断崖地形になっています。湾岸の東向き斜面には「日本の棚田百選」に認定されている「日引（ひびき）の棚田」があり、のどかな農村風景が見られます。</p>	【マップ】	
100		<p>若狭路満喫 小浜線</p> <p>小浜線に乗ってみると、三方五湖や若狭湾の海岸線、広大な田園などの多種多様な風景を見ることができます。また、若狭町の十村（とむら）駅では歴史ある駅舎、若狭本郷駅や若狭高浜駅では近代的な駅舎を見ることができます。</p>	【マップ】	